

令和5年度 川越市男女共同参画に関する意識調査結果（概要版）

1. 調査概要

◆調査の目的

本調査は、男女共同参画に関する市民の意識や課題等を把握し、「第七次川越市男女共同参画基本計画」の策定及び男女共同参画行政の推進のための基礎資料とすることを目的とする。

◆調査の設計

- (1) 調査対象者 川越市内在住の満18歳以上の男女（外国籍市民を含む）
- (2) 標本数 3,000人（男女各1,500人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳に基づき、年齢・性別・行政区の人数比を用いた層化抽出法
- (4) 調査方法 郵送配布、郵送回収またはWeb回答（ハガキによる督促1回）
- (5) 調査期間 令和5年6月16日（金）～令和5年7月14日（金）

◆回収結果

	標本数	有効回収数			有効回収率		
		郵送	Web	郵送	Web	Web	
全体	3,000	1,296	934	362	43.2%	72.1%	27.9%
女性	1,500	740	556	184	49.3%	75.1%	24.9%
男性	1,500	539	362	177	35.9%	67.2%	32.8%
その他		2	1	1		50.0%	50.0%
性別無回答		15	15	0		100.0%	0.0%

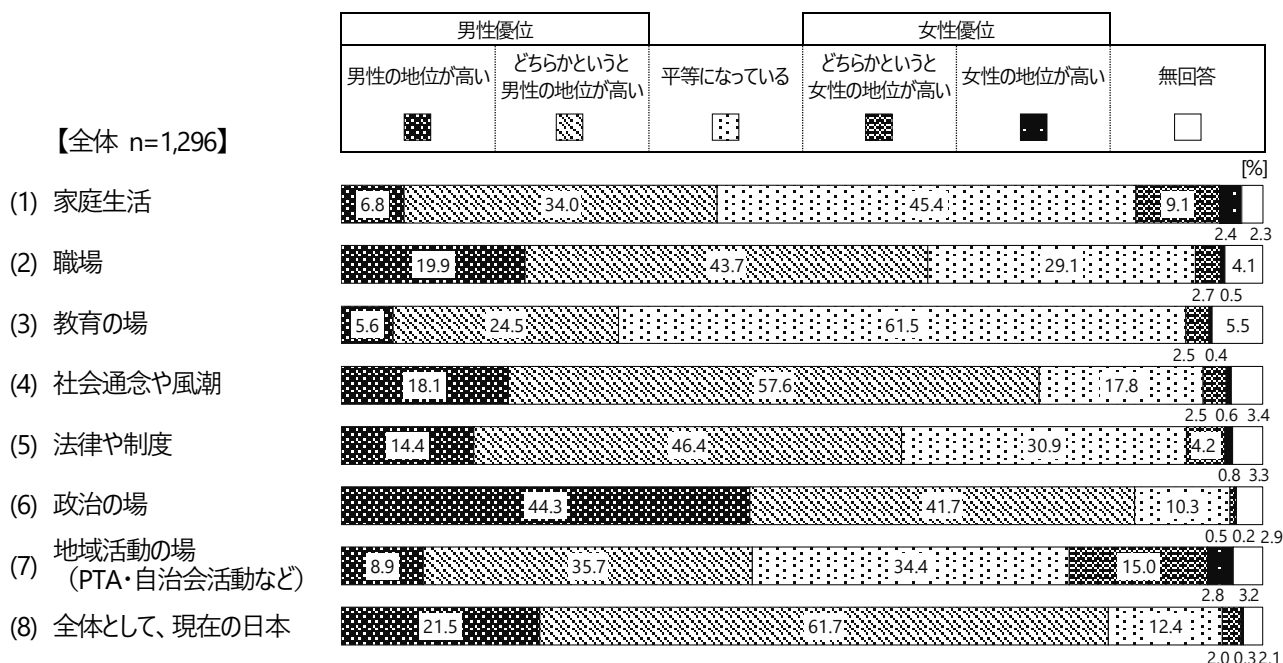
2. 調査結果

1 男女共同参画に関する意識について

◆分野別男女平等意識【報告書13～19ページ】

問 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。

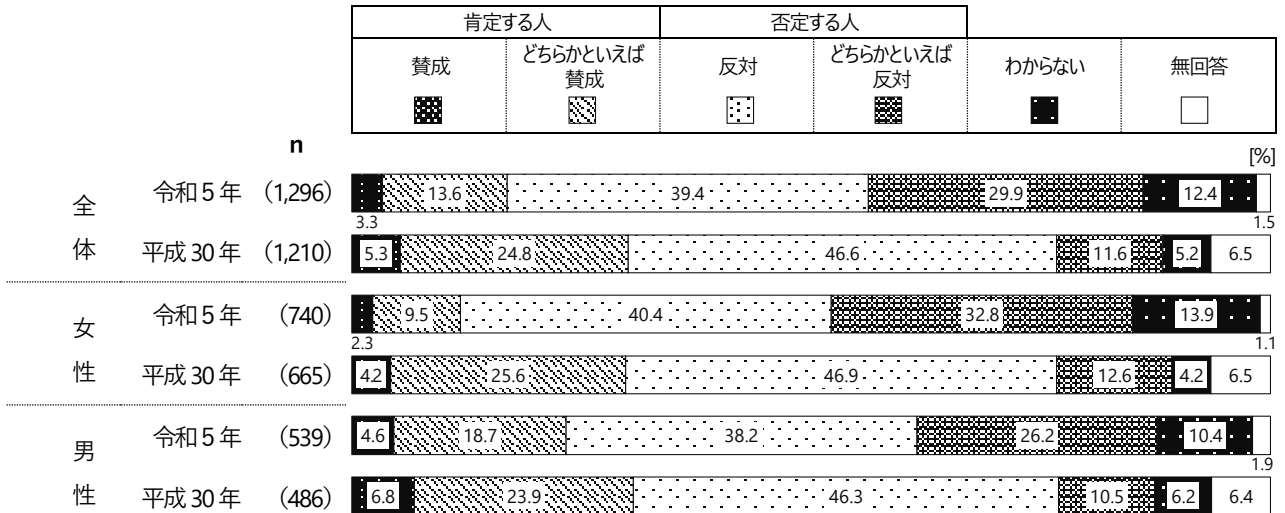
【教育の場】で「平等になっている」が61.5%と高くなっている。一方で、【社会通念や風潮】、【政治の場】、【全体として、現在の日本】では、「男性の地位が高い」と「どちらかというとなりの地位が高い」を合わせた『男性優位』が高くなっている。



◆性別役割分担【報告書 20～22 ページ】

問 「男は仕事、女は家庭」のように、性別で役割を固定することについて、あなたはどのように思いますか。

全体では、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『否定する人』(69.3%)が、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『肯定する人』(16.9%)を52.4ポイント上回っている。
性別で見ると、『否定する人』は女性(73.2%)が、男性(64.4%)を8.8ポイント上回っている。
平成30年度調査と比較すると、全体では、『否定する人』(69.3%)が、平成30年(58.2%)より11.1ポイント増加している。

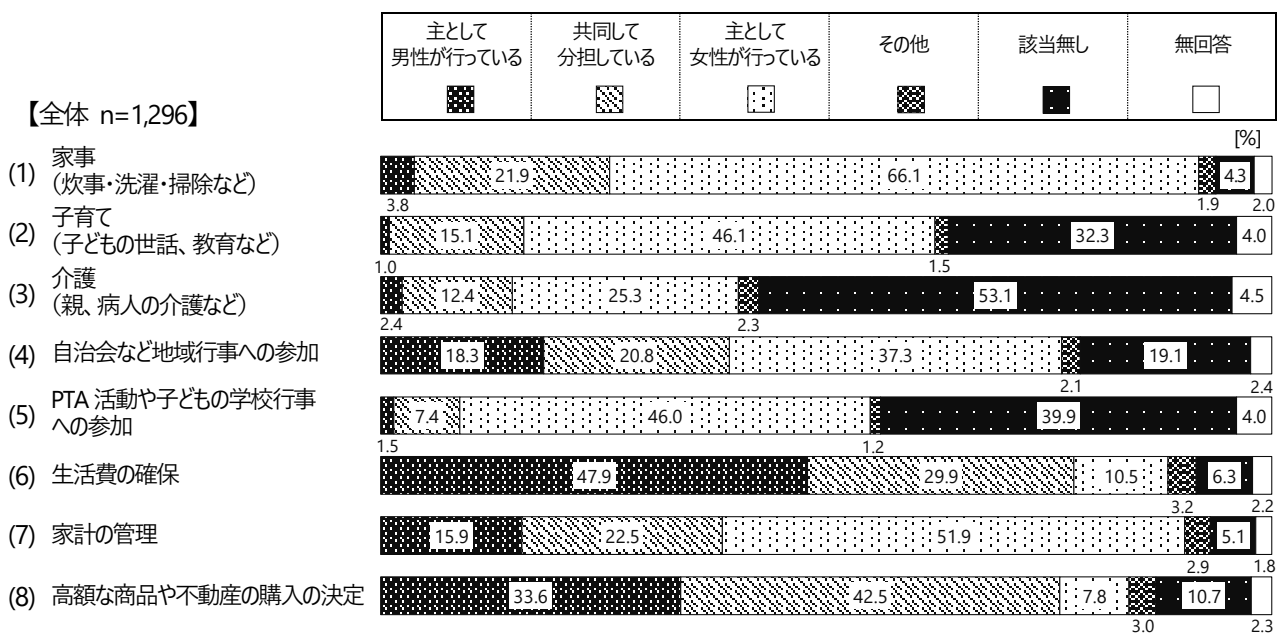


2 家庭生活（家事・子育て・介護）について

◆家庭での役割分担【報告書 25～33 ページ】

問 現在、あなたの家庭では、次のことについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。

【家事（炊事・洗濯・掃除など）】、【子育て（子どもの世話、教育など）】、【PTA活動や子どもの学校行事への参加】で「主として女性が行っている」が高く、「主として男性が行っている」と「共同して分担している」の合計を30.0ポイント以上回っている。一方、「主として男性が行っている」が高いのは【生活費の確保】(47.9%)で5割近くとなっており、「共同して分担している」は【高額な商品や不動産の購入の決定】(42.5%)が4割を超えて最も高くなっている。

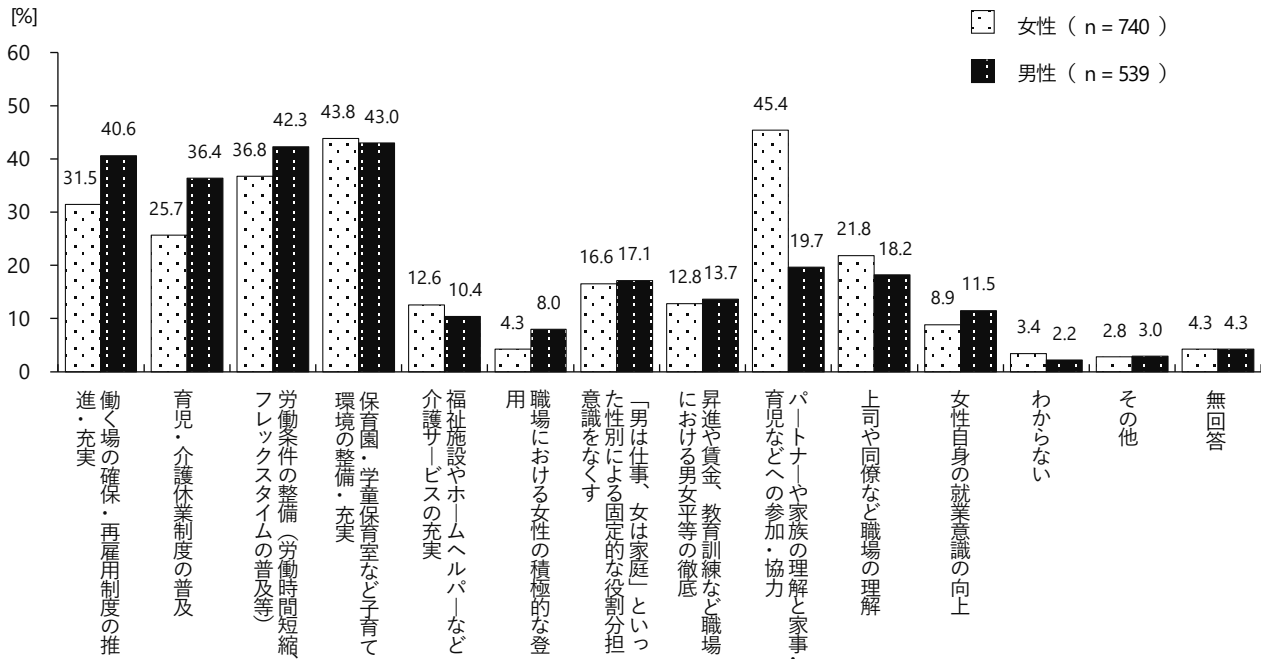


3 仕事について

◆女性が職業を持ち続けるために必要なこと【報告書 46 ページ】

問 あなたは、女性が職業を持ち続けるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。

女性では、「パートナーや家族の理解と家事・育児などへの参加・協力」(45.4%)が男性(19.7%)を25.7%上回って最も高くなっている。また、「保育園・学童保育室など子育て環境の整備・充実」は、女性が43.8%、男性が43.0%と、ともに4割超で高くなっている。

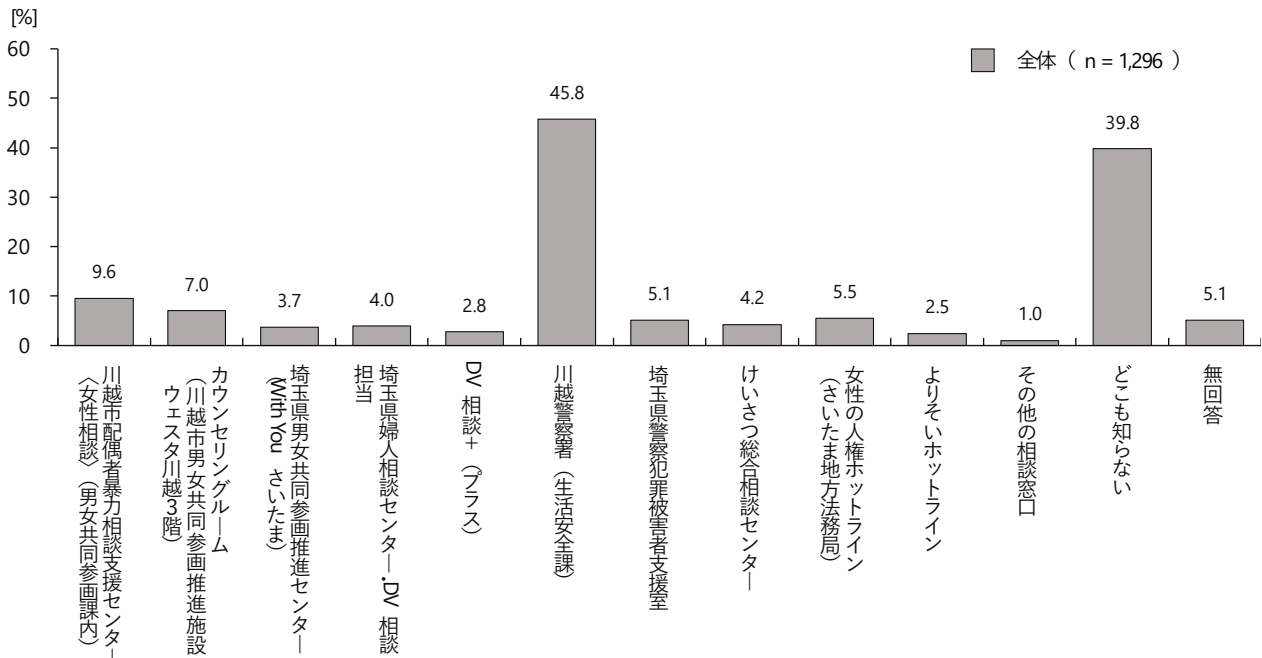


4 人権・暴力について

◆配偶者等からの暴力の相談機関の認知状況【報告書 64 ページ】

問 あなたは、配偶者等や交際相手からの暴力について相談するところを知っていますか。

「川越警察署(生活安全課)」(45.8%)が最も高く、次いで「川越市配偶者暴力相談支援センター〈女性相談〉(男女共同参画課内)」(9.6%)、「カウンセリングルーム(川越市男女共同参画推進施設ウエスト川越3階)」(7.0%)の順となっている。

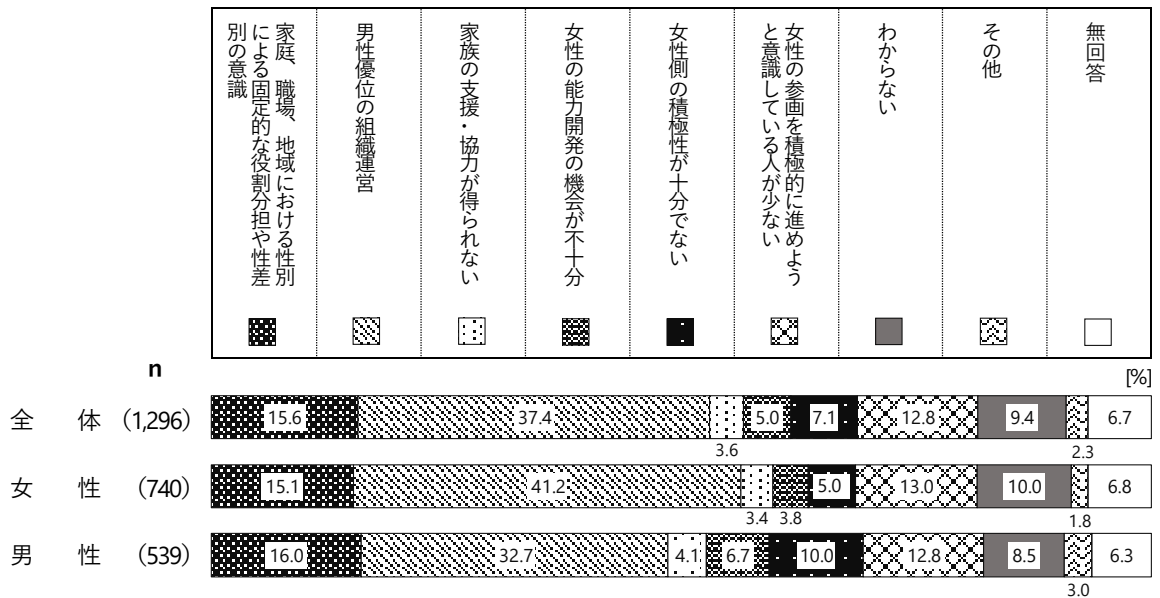


5 男女の社会参画について

◆女性の政治・行政への参画が少ない理由【報告書 68 ページ】

問 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。

全体では、「男性優位の組織運営」(37.4%)が4割近くで最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による固定的な役割分担や性別意識」(15.6%)、「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」(12.8%)の順となっている。



6 男女共同参画を推進するための取組について

◆男女共同参画に関する言葉の認知状況【報告書 77~84 ページ】

問 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。【性的マイノリティ (LGBTQ等)】

「内容を知っている」は51.3%、「聞いたことはあるが内容はよく知らない」が34.0%となっている。平成30年度調査と比較すると、「内容を知っている」は8.7ポイント減少し、「聞いたことはあるが内容はよく知らない」が12.0ポイント増加している。

